

さかいがわ

特集

境川をのぞいてみよう

生活環境課 ☎32-8018 FAX76-5702

市内を流れる境川にはさまざまな生き物がすんでいて、彼らはそこで一生懸命に生きています。今年の夏は夕毛網を持って、水の中の彼らの生活を観察してみましょう。そこで発見し、学んだことから私たちの自然環境についても考えてみませんか。



■ 境川の紹介

愛知県の中央部を流れ、境川水系の本流を成す二級河川。流路はおおむね尾張地方と三河地方の境界付近を通っています。

境川の源流である長田池(写真①)は黒笹町にあるため池。周囲を囲むアカマツやコナラの緑が湖面に映り、神秘的な空間をつくり上げています。市の南西部の境川沿いには遊具や貸し自転車、マレットゴルフが利用できる境川緑地(写真②)があり、対岸に見えるのは東郷町。最後は衣浦湾(写真③)へ流れ出ます。

種別	二級河川
延長	25.0km
流域面積	264km ²
水源	長田池
河口	衣浦湾



①



②



③

■ こんな生き物がすんでいます



オイカワ

繁殖期のオスは美しく変色します



カワムツ

体に黒の縦縞が一本入っています



ギンブナ

うろこが銀色に輝いています



カマツカ

砂に潜っていることが多いです



ドジョウ

エラ呼吸と皮膚呼吸ができます



スジエビ

透明な体に褐色の帯模様です



ニホンイシガメ

晴れた日に日なたぼっこをします



トノサマガエル

さまざまな昆虫・クモを食べます



ギンヤンマのヤゴ

成長するとトンボになります

生き物を探してみよう

川の中で一生懸命に生きている小さな生き物たち。一見その姿は見えなくても、彼らは草むらや石の陰に隠れています。少しでも観察させてもらいましょう。

安全に楽しむための格好・持ち物(一例)



川遊びのルール8カ条

- 立ち入り禁止の場所には入らない
- 天候や流れに気を付ける
- 水分をしっかり取る
- ゴミは持ち帰る
- 暗い時間帯は行かない
- 体調が良くない時は行かない
- 必ず大人と一緒にいく
- 大人は子どもから絶対に目を離さない



生き物探しを楽しむコツ

水辺の生き物をタモ網ですくうことを通称「ガサガサ」と呼び、子どもから大人まで手軽に楽しめる遊びと学びです。タモ網を下流側に置いて上流側から草むらをガサガサと揺すったり、足や棒で軽く刺激を与えたりして生き物をタモ網に追い込むのがコツ。すくって観察したら、最後はそっと元いた場所に放してあげましょう。



大漁! /



特定外来生物に注意!

特定外来生物とは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、日本の生態系などに被害を及ぼすものとして指定された生き物。6月1日から新たに「アカミミガメ」と「アメリカザリガニ」が条件付特定外来生物に指定されました。この「条件付」とは、捕獲や飼育はできますが販売・購入・野外への放出などが禁止されるというもので、違反すると罰則の対象となります。責任を持って飼育しましょう。



ミシシippアカミミガメ



アメリカザリガニ

水生生物調査

市では豊かな自然環境を次世代に伝えることができるよう、環境教育の一環として小学生を対象に水生生物調査を実施しています。参加者が境川などで自ら採取した生き物を基に河川水質を調査します。今年度は9月に開催予定で、広報みよしなどでお知らせします。過去の実施状況はホームページをご覧ください。



ホームページ



市内で活動する団体

NPO法人みよしの自然環境を守る会

みよしの自然環境を守る会は平成26(2014)年9月に愛知県から「特定非営利活動法人(NPO法人)」の認証を受け、今年で設立10周年を迎えます。境川源流域を活動の主要拠点とし、里山・湿地の整備や希少動植物の保全、田んぼビオトープ作り、市の中心部に残るため池での水辺環境再生など、市全域を視野に入れて活動しています。稲作体験会などの体験活動の参加者は子どもや保護者、愛知教育大学の学生など年間で延べ

☎・FAX 34-0567

✉ h-suzuki@hm6.aitai.ne.jp



ホームページ



Facebook

1,000人を超えます。令和2(2020)年8月にはオンラインで「みよしの生きもの写真展」を開催。約5年間の調査の中から138種もの生きもの写真を展示しました。本年度は10周年記念特別事業「いつでもどこでもSDGs～みんなで知ろう みよしの生物多様性～」を10月27日(金)～29日(日)にカネヨシプレイスにて市と共同で開催する予定です。来場者には「みよしの生きもの図録」をプレゼントします。ぜひ皆さんお越しください。



ふゆみず
▲冬水田んぼでの稲作体験会



▲ビオトープでの自然観察会



▲ため池での水辺環境再生の整備活動

赤トンボが飛び交い、メダカの群れが泳ぐ未来を夢見て

現在、地球上では多くの生き物がかつてないスピードで絶滅しつつあります。令和4(2022)年12月にカナダで開催された国連の生物多様性条約第15回締結国会議(COP15)では、令和12(2030)年までに地球全域の陸と海の30%以上を健全な生態系として残すことを目指す「30 by 30」が決議されました。それほどまでに地球上の生態系が危ぶまれているのです。

このような情勢の中、私たちは身近な境川源流域を生き物の命あふれる豊かな自然環境として、子どもたちの未来に残したいと考えて活動しています。「田んぼの上を赤トンボの群れが飛んでいるね」「メダカがいっぱい泳いでいるよ」そんな声が聞こえる一帯になることが私たちの願いです。



▲みよしの自然環境を守る会
理事長の鳥居遼一さん